

History of Aburatsubo - Junjun

熱田神宮は、天照大神の御親皇孫に授け給ひし、世界に比なき我が皇位の神靈三種の
 神器の一なる草薙神劍即ち天照皇大神の威武の神靈に坐し、外に素盞鳴尊、日本武尊
 宮竈姫命、建稻種命の四神相殿に鎮ります。初め神劍は八咫神鏡と共に、伊勢神宮に
 御鎮座ありしが景行天皇の御代に、皇子日本武尊東夷を征し給ふ時に、尾張國に移り
 給ひてより、別に熱田神宮之稱へ奉るに至れるなり。されば神代の昔より、神威無窮
 に耀き、天皇を守り國民を護りて邦家の鎮之坐し、景行天皇の御代には、日本武
 尊に憑りて、駿河國に大賊を滅し、神功皇后征韓の時には、神威を現し、蒙古襲來の際
 には、威靈を赫し給へる等、人の能く知る所なり。斯るが故に、古來名將賢臣の敬仰
 する事も深く、源右大將、織田右大臣、豊臣關白、徳川將軍を始め、加藤清正、淺野
 長政等の如く或は宮殿を改造し、或は樓門を建立し、練旆を築きなごして、至誠を表
 したる者、枚擧に遑あらず。又歴代天皇の御尊崇篤きは言ふを須ひず。特に先々帝
 孝明天皇は、「格別の御社柄」ご仰せられ、先帝明治天皇は、前後三箇度御參拜あらせ
 られ、今上天皇も、皇太子に御坐まし、時、既に數度御參拜、樟樹の御手植遊ばされ御
 即位後更に御參拜あらせられ皇后宮、皇太子を始め、皇千方も、亦御參拜あらせられ
 たり、神威の尊嚴想ひ奉るべし。又天照皇大神の、齋庭の、稻種を播したまひ養蚕の
 事を始め給へるのみならず、相殿に坐す、日本武尊の稻櫓の事を教へ養蚕の方を示し
 たまひ、建稻種命の稻種播植に御功績ありしに依り、今尙豊年祭(花の堂)世様神事御
 田植祭など、農事に屬する神事頗多し、然れば、君を思ひ國を思ひ家を思ふ者は平素
 篤く崇敬して君國の隆運之家門の繁榮を祈るべきなり。

熱田神宮宮廳

藤田麻宮宮廟

藤く崇婦丁昏圖の劉藍之案門の樂樂とを種るべしなり。
田麻宮も。豊車に屬する輦車則ち、然りて、吾も思ひ圖も思ひ案も思ふ吾も平案
をまひ、豊車命の御車御車に輪車也もりうりあり、今尚豊車祭(亦の堂)廿二輪車輪
車も故も歸へるの心なす、麻宮に坐す、日本先尊の御車に坐す養蚕の式を示し
たり、輦車の尊嚴思ひ奉るべし。又天照皇大輦の、齊國の、御車も御しをまひ養蚕の
限分發良に輪車也とせり皇宮、皇太子も故も、皇子式も、亦輪車也とせり
るり、今上天皇も、皇太子に輪坐をうし朝、朝に履車輪車、輪車の輪手御車也り輪
車也天皇も、(齊國の輪車也)とせり、我帝也天皇も、前發三面也輪車也とせ
りてなる者、輪車に歸へる也。又天照天皇の輪車也言へる也。昔に決り帝
皇也等の取く也宮也也也、也也門も取立り、輦車も樂もなりて、空婦も奏
する車も樂も、縣太大夫、縣田太大夫、豊臣關白、藤川將軍も故も、瓜藤新五、對理
りて、輦車も歸へる也、人の詣り成る也なり。渡るは姑り、古來全祿賀臣の也
尊り思ひて、魏所國に大輦も歸り、輦車皇宮也韓の和りて、輦車も歸り、蒙古襲來の劉
に歸り、天皇も守り國也を歸りて我案の輦に坐りまう、景行天皇の輪車りて、日本先
尊りても、限り藤田麻宮に歸へ奉るに至りるなり。ちりて輦車の昔も、輦車無
輪車也りて、景行天皇の輪車り、皇子日本先尊東東も詣り歸りて、皇宮に歸り
宮也命、豊車命の四輪麻宮に歸ります。亦輦車も大明輦車と共に、神輦麻宮に
輦車の一なる草麻輦車也天照皇大輦の御車に坐す、やも奏蓋御車、日本先尊
藤田麻宮も、天照大輦の輪車皇宮に歸り歸り、世界に出るも豊車皇宮の輦車三輪の

Handwritten marginal notes on the left side of the page.